

令和6年度第2回廿日市市保健福祉審議会 児童福祉専門部会 会議録（要旨）

◎概要

開催日時	令和6年9月5日（木）18：30～20：30
開催場所	山崎本社みんなのあいプラザ 2階 健康指導室
出席委員	西川部会長、山村副部会長、川本委員、大賀委員、眞部委員、松浦委員、宮武委員、空田委員、田畑委員、樋口委員、井場委員、満井委員、奥田委員、平野委員
欠席委員	なし
会議内容	1. 開会 2. 子育て担当部長挨拶 3. 議事 （1）第2期廿日市市子ども・子育て支援事業計画の総括について （2）第3期廿日市市子ども・子育て支援事業計画に係る需要量の推計について （3）第3期廿日市市子ども・子育て支援事業計画の主な課題と取組等について 4. 閉会
配付資料	・第2回廿日市市保健福祉審議会児童福祉専門部会次第 ・資料1 第2期廿日市市子ども・子育て支援事業計画（令和2年度～令和6年度）の総括 ・資料2 第3期廿日市市子ども・子育て支援事業計画の需要量の推計 ・資料3 廿日市市の子ども・子育てに関する現状と主な課題 ・資料4 第3期廿日市市子ども・子育て支援事業計画 主な取組（案）

◎会議内容（要旨）

1. 開会

2. 子育て担当部長挨拶

3. 議事

（1）第2期廿日市子ども・子育て支援事業計画の総括について

事務局	（説明）
部会長	中四国で転入が一番多かった自治体はどこだったか。
こども課	確認できていない。
部会長	今後の参考になればと思い、聞いてみた。子育て世代が来てくれていることはいい傾向である。
こども課	確認して、知らせる。
委員	グラフ4について、未就学児が減っているのは少子化が一番の理由だと思うが、これに対しての具体的な対策があれば伺いたい。この計画策定の中で考えていくことだとも思う。また、ある自治体が人口減少が非常に進んでいたが、爆発的に人口が増えているというネット記事を見た。いろんなものが整備されていって、とても住みやすいと住民が感じているそうである。その記事を読んで、全国的に人口が減っていても、地域によっては伸ばす可能性があると感じた。魅力発信も含めて、少子化は市をあげて考えなければいけないテーマであると思う。人口をどうやって増やしていくのかという市の方針があるのであれば、伺いたいし、協力していきたい。
部会長	北関東の方で、外国籍の方が働ける産業があって、受入体制もあって、外国籍にルーツのあるこどもも学びやすい環境があって、人口が増えた例があると聞いている。資料4に「はつかいち外国人相談センターの機能充実」と書かれているが、受け皿を整えていくことは大切である。
こども課	少子化の要因の一つに婚姻率の低下がある。市で何をやるという具体策はないが、出会いの場づくりなどが考えられる。
委員	30代が転入超過となっている大きな理由はなにか。
こども課	正確な分析ができていないわけではないが、大野などでは買いやすい価格帯の住居が多く整備され、子育て世帯の人口が増えているという実態がある。
部会長	第2期計画を策定するときに、他市で仕事をしていたとしても、家を建てる場所として廿日市を選んでもらえるように考えた。ある程度の所得税を収めている子育て家庭は、こどもが小学校低学年ぐらいになった時に家を建てることを考えることが多いが、そういった世帯を見込んで、留守家庭児童会を広島市よりも早期に拡充した。
委員	転入元はどこか。
部課長	転入元は近隣が多い。「保育園落ちた」が話題の時に、廿日市には新

	設の保育園がたくさんあった。第1期の時には、民間の保育園を呼び込んだ。第2期では、園児数が増え、サポートを求める声も増えたため、児童発達支援センターとも協力しながら支援を充実させた。それぞれ頑張った結果、転入超過につながっていると思う。
委員	廿日市はふるさと教育を推進している。教職員が廿日市市を好きな子を増やせば、就職しても廿日市に帰ってくると思う。廿日市が好きな子を増やしていきたい。

(2) 第3期廿日市市子ども・子育て支援事業計画に係る需要量の推計について

事務局	(説明)
委員	留守家庭児童会について、前回の会議で聞いた進捗状況では、目標値を達成しているところと達成していないところがあったと思うが、資料2の6ページには、確保方策2,350、実績2,350とある。これはどの学校でも希望があれば100%利用できていると理解してよいか。
こども課	基本的に、申込みがあれば、利用していただいている状況である。
部会長	夏休みは厳しいところがあったり、児童会での集団生活が苦手な子はそもそも申し込まないという場合もあり、数値だけでは分からないところはある。児童会のニーズは多く、バラエティに富んでいる。ニーズが多いところ、細やかな支援のニーズがあるところ、余裕があるところと地域によって差はあるが、廿日市市全体でみると、希望すれば利用できるということである。
委員	(14) 多様な主体が本制度に参入することを促進するための事業とはどういうことか。
こども課	新しく開園した私立の認可保育園へ元園長先生など経験のある保育専門職が出向き、認可保育園の運営や人材育成について、アドバイス、や継続的なフォローを行うことである。
部会長	2・3ページの3歳未満のニーズや9ページの一時預かりのニーズをみると、廿日市市の誰でも通園制度のニーズは低くはないだろうと見て取れるが、準備は何か考えているか。
こども課	制度としては令和8年度本格実施することとなっており、試行的に実施している広島市には、状況などの確認はしている。廿日市には保育施設が40あるが、全ての保育施設で実施するのかといった方針は決まっていない。現場の負担を考え、保育園以外でも実施できるかということも含めて検討をしている。令和7年度から試行的に実施する等も回答できない状況である。
部会長	保育園や保護者は廿日市市がどのようにするのか早く知りたいと思う。早めに情報を公開をしていただけたらいいと思う。

(3) 第3期廿日市市子ども・子育て支援事業計画の主な課題と取組等について

事務局	(説明)
-----	------

部会長	今日は時間がないので、各委員から一通り、意見を言っていただき、最後にまとめて回答してもらおう。
委員	第3期の取組として、医療的ケア児の受け入れ体制の確保について書かれているのはありがたいし、今、必要にせまられていると感じている。ただ、医療的ケア児をケアできる看護師がいないと受け入れ体制ができない。特に小児を見ることができる看護師は少ないが、人材育成については計画に入っているのか。受入体制と人材育成を抱き合わせて計画にいれると具体的になると思う。
委員	主任児童委員制度は創設30周年を迎えた。8月に全国大会があり、オンラインで出席したが、こどもの出生数が制度創設当時は120万人だったが、今年度は70万人を切るのではないかと言われていた。廿日市市のネウボラ体制はとても充実していると感じている。留守家庭児童会については、途中から入会できなかった例を聞いており、厳しい状況はあると思う。保育園については、民間の保育園は敷居が高い。公立だったとしても、民間だったとしても、地域の方と関わりを持った園づくりをしていただきたい。まるくる大野は民間が運営しており、管理会社は東京だと聞いている。施設は良いが、児童虐待のポスターの掲示については断られたと聞いた。これまでの地域との関わりが、民営化によって難しくなっているところがあると感じている。
委員	今後は地域で子どもを育てることをやっていかないといけないと感じている。コミュニティ・スクールが始まったところから地域の方を巻き込んで学校を運営していくということが活発になってきたと感じている。保護者だけでも難しい、学校だけでも難しい、地域の方に手伝っていただきたいというのは、保育園でも共通してるのではないかと話を聞きながら感じた。学校には、様々な悩みを抱えたこどもが多く、小中でも悩みが違う。先生が個別に対応するのは大変なので、スクールソーシャルワーカーの増員はありがたいが、本当に人員がそこまでののか疑問が残る。保護者も働きながらできることはしっかりやっていきたいという思いはあるが、地域の方からみると保護者は何もしていないと見られる部分がある。それを聞いて落ち込む保護者はいる。温かく見守っていただきたい。まず、学校も保育園も保護者も地域の方と話をすることが大切だと感じている。 また、ヤングケアラーについて、私自身も妹が障がいを持っており、ヤングケアラーだったが、家族・兄弟なので当たり前に行っており、「ヤングケアラー」と呼ばれることに抵抗がある。環境や周りの方がよかったのかもしれないが、困ったことはなかった。ヤングケアラーへの支援の充実というのはどのようにしていくのか気になっている。
委員	地域の方には学校の授業、行事を支援していただいて助かっているが、担い手不足が深刻である。60歳になって仕事を辞めて全てボランティアに捧げられるかと言われれば難しい。定年が延長されたり、少し働いている方が多く、それは当たり前だと思っている。どうしたら次の

	世代に渡せるか、PTAの方とも相談しながら考えるが、なかなか難しい。地域の方には本当にボランティアでやっており、こどもを思う気持ちだけで成り立っている。少しでも何かあればよいと思う。 コミュニティ・スクールには市民センターの所長も入っており、こどもの居場所づくりということで、夏に子どもが勉強できるよう部屋を開放していただいたり、イベントを企画していただいたりしている。こどもがより市民センターと関われるように、学校を開放して市民センター行事を行うことを計画している。市民センターに行かなくても地域の方とつながったり、居場所を感じたりできればと思う。また、佐伯高校では、自分の特技がどう地域にいかせるかということを考える授業があり、自分がこどもの時に放課後寂しい思いをした生徒が、学校の部屋を借りて、こどもの勉強をみたり、遊んだりすることを企画してくれている。このように、地域には大人だけではなく、地域に通っている生徒などもおり、どんどん広がっていったらなと思っている。
委員	労働者協議会では、毎年1回アンケートを取っており、保育士の人材確保や処遇改善については切実な要求が来ている。尾道市は人材確保のための補助を出していると聞いたことがある。現時点で人材確保がひっ迫している状況なのか伺いたい。
委員	産業界ではコロナ明けから人材不足が叫ばれている。市外からの転入者を増やすことはもちろんであるが、今後、外国人材の活用は避けて通れない。外国人のお子さんが増えてくると思われるため、お子さんの受け入れ体制の拡充が必要であると感じている。
委員	保育園の現場では幼児組は定員に余裕があるが、乳児組は4月の段階で定員いっぱいになっており、乳児保育の需要の高さを感じている。今の保護者は育児の情報をインターネットを通じて得ることが多いが、その情報や知識が必ずしもこどもの実態や気持ちに合っていないことがある。だからこそ保育士との関わりが大切だと思っている。ちょっとしたやりとりで安心したり、こどもの成長を実感することができる。ただ、保育士は忙しくしており、保護者も遠慮して声をかけられなかったりする。配置基準は満たしているが、決め細やかな保育をしていくために、もう少し人員が欲しいと感じる。こども誰でも通園制度は大切な制度だと思っており、地域の子育て支援も担う保育園として、未就園児にも利用してもらいたい気持ちはある。ただ乳児は、親と離れると不安となり、泣いてしまうことが多く、4・5月の乳児組でも保育士が何人いても足りない。十分な人員配置で、安心出来る環境で、さまざまな不安材料を解消しながら、こどもと保護者にとっても、働く職員にとっても、人と人がつながりながら、育ち会える保育現場になればなと思っている。
委員	民間の幼稚園がどんな役割を担っていけるか考えさせられる。民間幼稚園、保育園は長い歴史を積み上げていることが多いが、それが失われてきている。全国幼稚園連合会からきた資料の中に「保護者は保育の質が分かるのか」という資料があった。結果としては「分からない」となっ

	ていた。保育士が普段交わしているきめ細やかな会話ややり取りは保護者に伝わらず、どうしても保護者は利便性の問題の方に目がいき、それを保育の質と捉えてしまっている。これは保護者は悪くなく、仕方ないことではある。長い歴史のある施設は保育の質が高い保育士さんが多い。積み上げてきた環境、保育の内容、文化、園の風土等が簡単に失われる時代になっており、社会資源としてもったいない。園児が減って、経営が難しくなって、園がなくなるという単純な図式だけで園がなくなっていくと、保育の質が低下していくと感じている。淘汰の時代なので、仕方ない部分もあるが園児が多少減っても園の風土が残るバックアップ体制を求めている。難しいことではあるが、豊かに積み上げてきた民間の園の文化が残っていける仕組み作りがないと非常に勿体ない。 また、療育についてだが、療育の形にあてはめすぎると療育の子どもに育ってしまう。発達障害ではないが、環境要因などから発達障害に見える子どもが10倍くらいに増えてきていると言われている。園でしっかりと体を動かし、規則正しい生活をする中で、これまで気になっていた社会性、コミュニケーション、人間関係が気にならなくなることが多いということを知っておかなければいけないと思う。
委員	ネウボラ体制の充実とあるが、妊娠、出産、子育てを切れ目なく支援することは、社会を形成することや人を育てていくことと同じであり、どのようにやっていくか考えていかなければならない。1つ1つ積み上げること、積み上げたものを大切にすること、新しい発想を持ちいて構築することがこれから必要であると考えている。切れ目なく支援するとあるが、廿日市市のネウボラはいつまで切れ目なく支援するというものなのか。就学前までなのか、就学後もなのか。前回も話をしたが、児童会にも課題があると聞く。途中入会ができなかったり、定員が足りないということもあるが、多様な子がいるので、児童会で居場所を見つけられず児童会に行きたくないという子もいる。何が悪いということではなく、居場所を作ってあげる体制ができていないということである。不登校にもつながると思う。安心できる居場所があると、学校に行くモチベーションもあがる。そういうことも意識しないといけないと考えている。多様性は求められているが、廿日市市はそれを大枠で見るのか個別に見るのか精査していただきたい。第3期は何を基本としてやっていくのか。全てを網羅しようと思うと莫大な労力と時間がかかる。優先順位はあると思うので、そこに着眼して考えてほしい。
委員	廿日市市の取組は少しずつ良い方向に変わっていると実感している。書かれている取組がされると、さらにいい方向に変わっていくと思う。前回も伝えたが、保育士の負担を減らして保護者と向き合う時間を増やしてほしいという意見がアンケートの結果からも出ており、改善を期待している。
委員	保護者として教育の質の部分が気になっている。教育の質という言葉に違和感があり、教育の幅と言い換えた方が個人的にはしっくりくる。

	前回、こどもの夢や目標についての話があったが、こどもが何に興味があるのか自分で発見させてあげるということを考えると、既存のものの質を高めるのではなく、教育の幅を広げてあげることが重要だと思った。これを学校に求めるのは無理があるとも感じていて、保護者がそこに参加しないといけないと思うが、保護者も知っている幅には限りがある。どのようなものがあるのか、保護者として情報を取りに行きやすい環境を作っていただけるとありがたい。新しく何かを作るのではなく、例えば原キッズのように、資源は既に多くあるように感じており、それを教育としてリフレーミングしてあげると、保護者はそれを教育として取りに行きやすくなるのではないかと考えており、YouTubeを見れば学習できるものもある。農業や潮干狩りなど廿日市市でしか体験できないものもある。何が廿日市の教育として自前でやらないといけないのか精査し、教育コンテンツがこんなにも廿日市市にあると保護者に提示していただきたい。けん玉もイベントではなく、教育の一つとしてラインナップするだけでも見え方は変わってくる。伝え方を変えることは解決策となると思う。
委員	みなさんの意見を聞いて、様々な課題を廿日市市の中でどう組み合わせるか考えなければならぬと感じた。コミュニティ・スクールや地域観光といった様々な財産と個々の課題を良い形でつなぎ合わせられるような仕組みができれば、よい計画になるのではないと思う。児童発達支援センターとしては、保育園・幼稚園と連携を取りながら、こどもの支援をしていきたい。そのためには、体制をどう充実させていくのかも廿日市市の課題であると思う。市と一緒に考えて頑張っていきたい。保育士の人材確保と処遇改善とあるが、児童発達支援センターも同様である。公的な保育園などの賃金は人事院勧告でどんどん上がっていくが、発達支援センターの報酬はそこに追いついていかず、人の確保が難しい部分もある。処遇改善や各種支援制度等の対象の中に児童発達支援センター、民間保育園、幼稚園を置いてけぼりにしないように一緒に廿日市市としてうまく回っていくよう考えていただきたい。障がい福祉施設の施設運営（収入）は日割り計算から時間割にまで、より厳しい対応になってきている。障害福祉課とこども課で連携を取ってほしい。 また、こども誰でも通園制度はこどもの権利と言われたが、権利を保障するなら体制を整えないと保育園もこどもも大変になる。現場の状況も踏まえて、課題をしっかり洗い出し、こどもにとって良い内容にしないといけない。
委員	基本目標2の「子どもの育ちを保証し、子育て家庭を応援する」の「貧困や様々な課題を抱える子どもの支援を充実させる」の部分が気になる所である。施設に入っている間は、職員がこどもの登校や登園を代行してできるが、地域に出た時にそこが途切れてしまう現実がある。学校に行けていない期間があると、勉強している期間が抜け、学校に行っても勉強が周りについていけない。地域に出た時に不登校になってしま

	う現状がある。居場所づくりが必要と感じていて、不登校だけに限らず、こどもがたくさん体験でき、権利も保証され、自分の力を発揮でき、夢を持てる場所を増やしていけたらと考えている。ヤングケアラーの支援の1つにもなると思う。 また、こども家庭センターの機能の充実については、児童福祉法の改正に伴うものであり、当施設も特定妊婦のケア、要保護児童に対するサポートは市と一緒にやって行きたい。 大野は家がたくさん建っていて、0歳から2歳の保育園がいっぱいの状況がある。保育園の先の見通しと現状を伺いたい。
部会長	計画には優先順位がいる。私が、次の5年間で譲れないところはこ子どもが生まれる廿日市市にすることと命を守ることである。山も海も持っている廿日市市は災害の備えをしないといけない。こどもも配慮が必要な方も高齢者も生き残り、安全に仕事に復帰ができ、保育園も幼稚園も小学校もすぐに稼働ができる体制を作りたいと心から思っている。個人的には、幼保小や地域が連携した避難訓練をたくさんしてほしいと思っている。避難訓練をすることで顔が見え、人が繋がっていく。守ってもらう側から守る側となる人材を育てたい。大人だけじゃなくて、チーム廿日市として児童も生徒もやれることをやる第3期計画にしたい。そのためには、DX化が不可欠であると考えている。誰でもアクセスすれば情報を取れてシェアできるパンクしないシステム構築が必要である。 市の保育指針の確立については、2027年に保育指針も幼稚園教育要領も小中学校の学習指導要領も変わる予定のため、焦らず指針を作った方がいいと思われる。
委員	災害時、電気が完全に落ちると携帯は使えないし、保護者とのアプリも使えないし、ICTが無意味となる。市からの情報も途絶える。例えば、市民センターに行けば、電気を介さない情報が取り合える環境を作してほしい。法人だけでは難しく、行政が中心となって、整備しないかぎり、情報共有は不可能である。
部会長	廿日市よりリスクが高い地域は発電機と3日間の備蓄を準備している。廿日市市はクラウドなどのシステムの準備をしておいた方が良い。保育のDX化といった名目で予算が取れるように計画書へ記載した方がいいと思う。5年で何が起こるか分からないため、それに向けた避難訓練、学習、人材育成をした方が良い。
委員	一つを取ると波及すると思われるため、どこかに焦点をあて、より明確化、見える化した方がいいと感じた。
部会長	項目があると予算が取りやすくなる。いい案配でまとめていただきたい。

4. 閉会